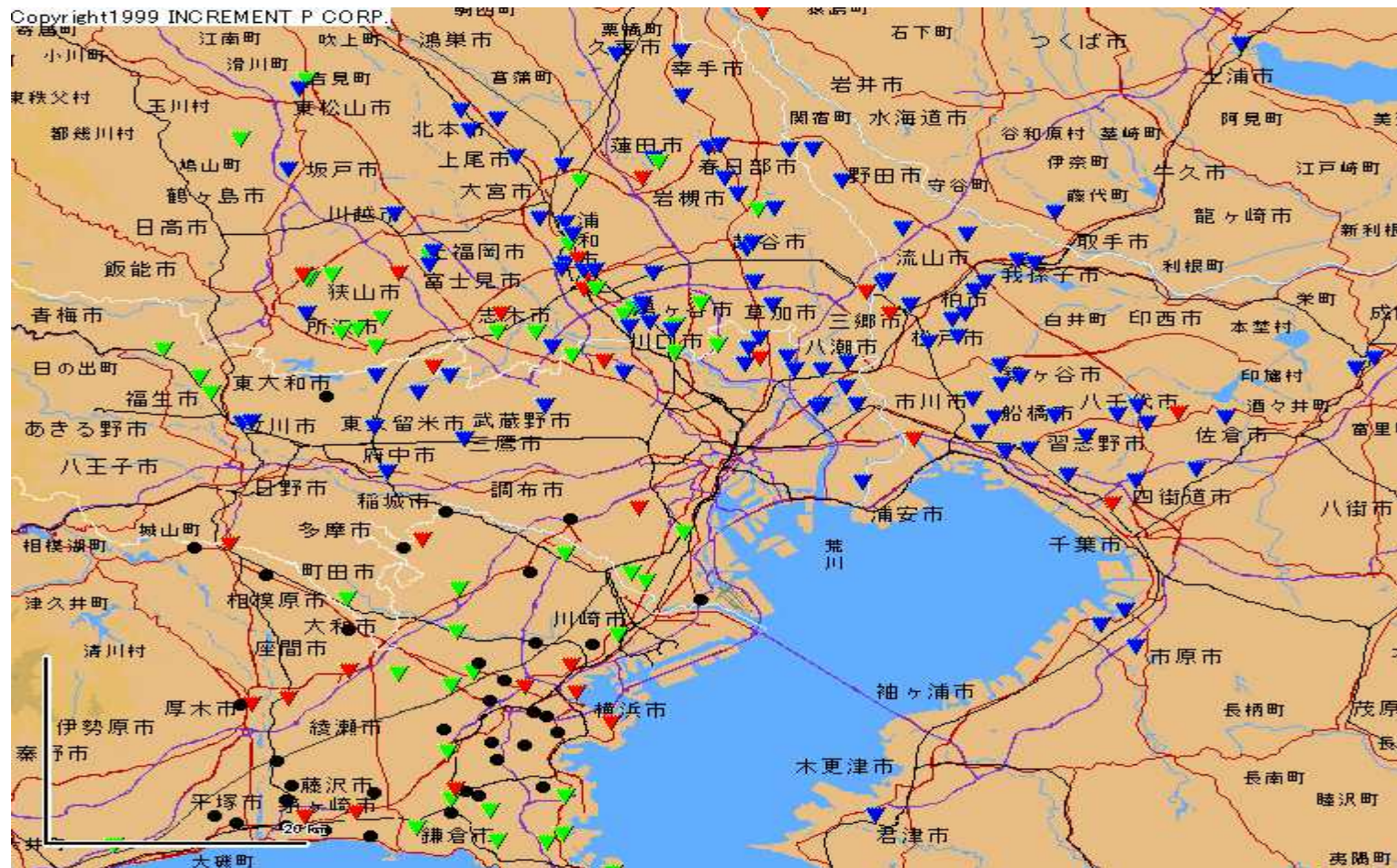


スーパーマーケット・コンビニエンスストア 生鮮物流センターへの納品共同化 (センター前センター)

平成17年7月29日

提案事業者:(株)ニチレイロジグループ本社

1. センターの広域化と多センター化



- 量販・コンビニエンスの生鮮センターは首都圏で160箇所以上
- 1センター当りの納品車両は約230台

2.納品メーカーの環境

(量販・CVS物流センター-納品の環境)

(a) 多センター化 広域化

(b) リードタイム圧縮要請
(賞味期限).....複数回納品要請

(c) センター納品時間指定

(d) 回収の問題
・ダンボール箱から指定コンテナ化の推進
・洗浄業務の発生

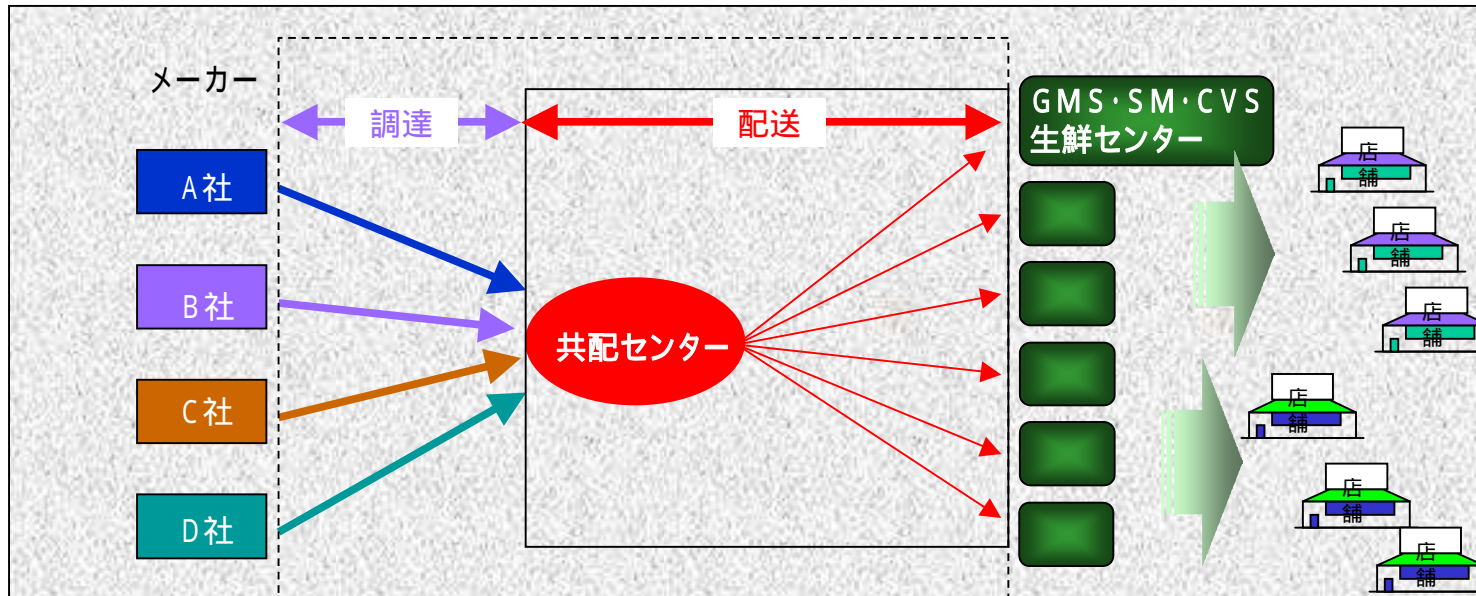


積載率の低下による納品車両の増加



納品コストの増大

3.共同配送



求められる
サービス

1. 物流品質
 - 温度管理
 - 指定時間納品
2. ロープライス
3. 機能提供
 - 仕分、流通加工
 - 事務代行

4.事業効果

- ・首都圏全体の納品車両は、1日当り36,800台
- ・共同配送により車両を10%削減すると、1日当り3,680台の車両削減できる
(首都圏の生鮮物流センターが160箇所、1センター当りの納品車両230台/日で算出)

それぞれのメリット

メーカー

- ・現行センター納品コストの削減
- ・集荷時センター一括検収

量販店・CVSセンター

- ・センター業務の標準化
- ・納品車輛の定時一元化

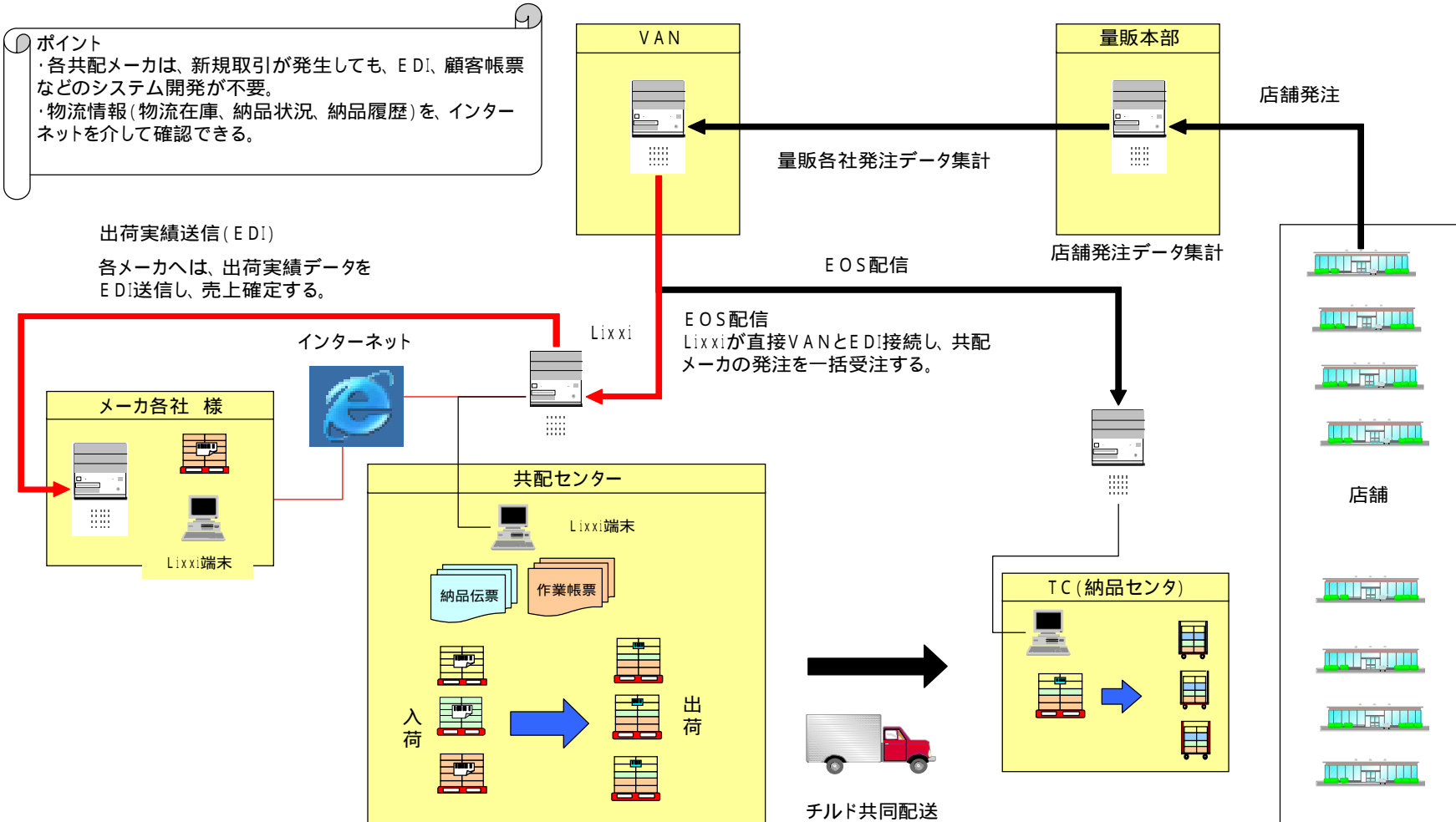
量販店・CVS本部

全体コストの削減

社会貢献、企業発展

5.情報システム

チルド共配システム

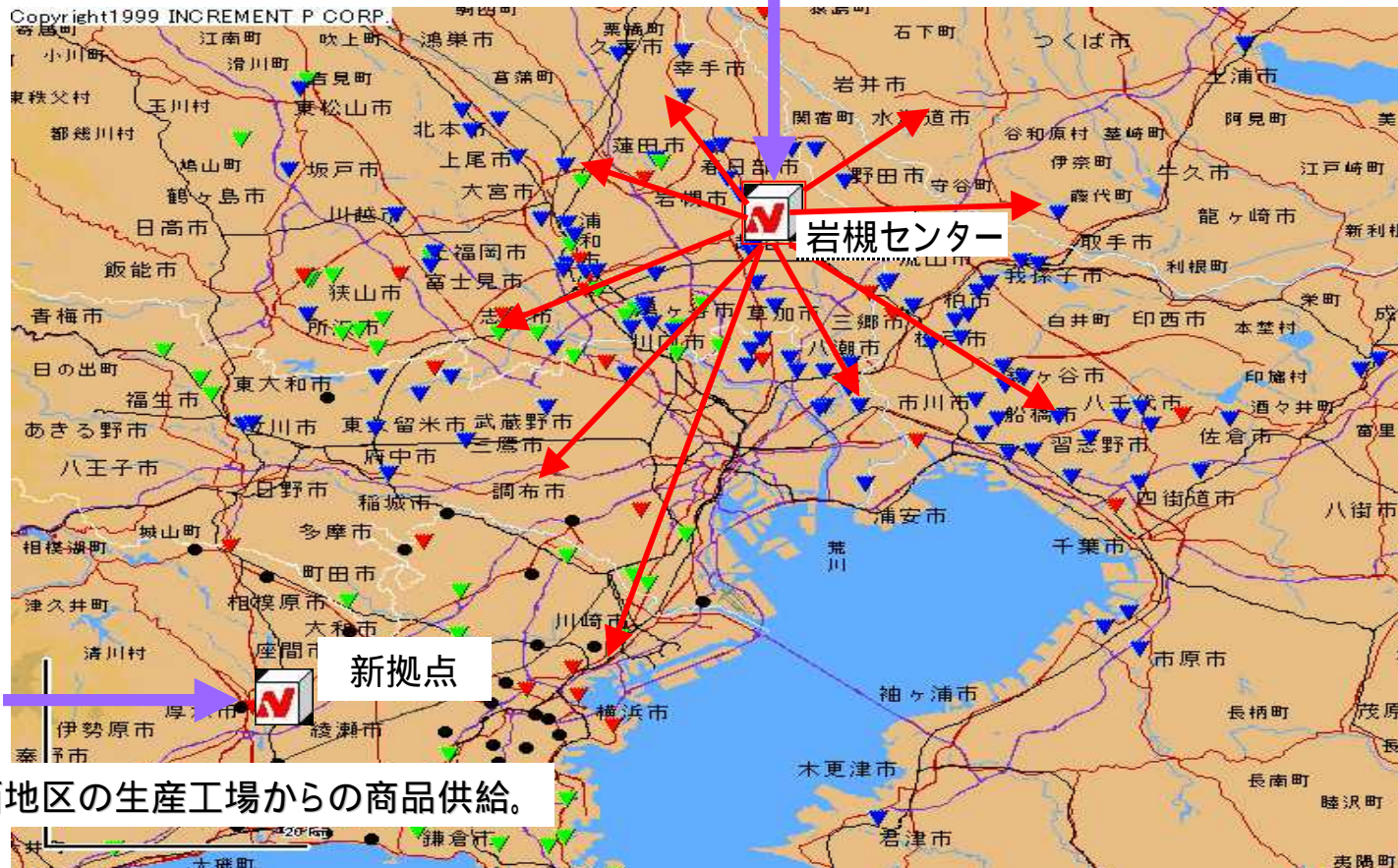


6.センター立地

- 現在岩槻センターにて首都圏約100ヶ所を配送
- 首都圏全域をカバーするためには、神奈川厚木地区にセンターが必要

生産工場

北関東、東北地区の生産工場からの商品供給。



生産工場

東海、関西地区の生産工場からの商品供給。